

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 1 8 6 4 6 1
起案日	平成 1 6 年 1 2 月 3 日
特許庁審査官	西島 篤宏 9 3 0 8 2 G 0 0
特許出願人代理人	梶山 侑是 (外 1 名) 様
適用条文	第 2 9 条第 2 項、第 3 6 条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 2 9 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。
2. この出願は、特許請求の範囲 of 記載が下記 of 点で、特許法第 3 6 条第 6 項第 2 号に規定する要件を満たしていない。

記

理由 1

- ・請求項 1 - 2, 1 2, 1 4
- ・刊行物 A. 特開平 0 3 - 1 4 3 0 1 7 号公報
B. 特開平 0 3 - 0 8 8 4 2 0 号公報
C. 特開平 1 1 - 3 1 7 6 5 3 号公報
D. 特開平 0 5 - 2 1 8 8 4 7 号公報
E. 特開平 0 5 - 1 6 7 4 2 4 号公報
F. 特開平 0 6 - 1 3 2 8 0 6 号公報
G. 特開平 0 9 - 2 1 4 3 2 4 号公報

(備考)

いずれか一方を OFF にしてからいずれか他方を ON することにより、消費電力の低減を図るようになつたバッファ回路は、例えば、上記刊行物 A 乃至 G に示されているように、回路技術一般において周知の回路にすぎない。そのような周知の回路を表示素子駆動用の回路として採用し、上記請求項に係る発明のよう

な構成を想到することは、当該技術分野の専門家にとって通常の創作能力の発揮程度のことにすぎないと認められる。

理由 2

請求項 3, 5 - 6, 1 3 について

(1) 請求項の記載では、抵抗やトランジスタが、具体的にどのような接続関係となっているのか明確ではない（一義的に接続関係が定まっていない）ことから、上記請求項に記載された発明の技術的範囲を明確に把握することができない。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

- ・ 調査した分野 I P C 第 7 版
 - ・ G 0 9 G 3 / 0 0 - 3 / 3 8
 - ・ G 0 2 F 1 / 1 3 3 5 0 5 - 5 8 0

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知書の内容に問い合わせがある場合、又は、この案件について面接を希望する場合は、特許審査第 1 部ナノ物理、西島篤宏までご連絡下さい。
(Tel.03-3581-1101 (ex.3225) Fax.03-3592-8858)